

さよならの楽しいひととき

校 長 武井 正明

昨日の下校時、ちょっと雨がパラったとき生徒玄関。

週の中日、5限で下校、心なしか吉中生達の表情も、ホッと一息といった感じだ。

朝もそうですが、吉中生の皆さん、下校時も本当に笑顔で挨拶を返してくれる。お辞儀してくれるだけでもありがたいのに、手を振ってくれる人もいる。これが何よりも嬉しく、照れ臭く、私の明日への最高の活力になるんだなあ。

ひとりの男子生徒が、時計上の校章にカラスの羽らしきものを見つけた。

「巢かなんか、作ろうとしたのかねえ…」「燕はよく作るよ」何気ないこんな会話が嬉しい。彼は3年生。修学旅行時よりも、顔つきがぐっと大人びてきた。

カラーガードの2年女子生徒とバレーボールの2年男子生徒が、横並びして背比べ。

たった1年だが、改めて彼を見ると、随分背が伸びた。今回は男子の勝ち〜っ!!

彼らの、これからのいろんな大会での姿にも注目だ。

またひとり2年女子生徒がやってきた。

「また私のこと『校長 vision』に書きますか?」「これは面白い、と思うことがあったら書きますよ」「じゃ、面白いことしましょうか」「そういうことじゃないんだよねえ。意識して面白いことをやっても、あんまり面白くないんだよね。あとで振り返って『これは面白かった』ってことがあったら、そりゃ載せますよ」「そうですか…」こんな他愛ない会話も、まだ見ぬ未来の孫と話しているようで、実に楽しい。

そしてまた2年女子のふたりと話した。

「修学旅行、今から楽しみ」「修学旅行は、楽しいよ〜。おいしいものもいっぱいあるよ」「うわ〜、楽しみでたまらないんだけど…」「2年生はいいよねえ。受験生でもないし、旅行もあるし、3年生ほどの責任はないしね」「私、職場体験楽しみ。吉田保育園行きたい」「吉田保育園出身?」「うん、ひよこ組行ってみたい」「〇〇がいる?」「いるよ」話をしながら、ふたりの眼はキラキラ輝いている。その若さがほしいわ…。

毎日の何気ない会話や発見に、心が動いたり、ワクワクしたり。それが青春。

吉中ライフそのものが、発見でいっぱいの、楽しいものであってほしい。